

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で2番浦議員の質問を終了させていただきます。

次に、20番松尾初秋議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。20番松尾初秋議員  
20番（松尾初秋君）〔登壇〕

おはようございます。議長より登壇の許可をいただきましたので、20番松尾初秋の一般質問をさせていただきます。質問は6項目でございます。答弁の方は簡潔で正確にお願い申し上げます。

まず、区画整理事業についてであります。

南国ビルを解体した後に、その跡地を利用してどうなるのか、どのような利用をされるのか、まず最初は公園をつくるやに聞いておりましたけれども、このごろでは町中広場をつくるやにも聞きましたが、どのような町中広場をつくろうと計画されておられますか、まずは計画をお尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

町中広場は、計画的には多目的広場というふうに考えております。しかし、あそこの場所の位置とポテンシャルティーを考えた場合は、隣地の駐車場にできないものか、あるいは、できれば木をやっぱり植えたいなど。それは全体を見渡してじゃなくて、武雄のシンボルというのは、皆さんと同じようにクスノキだと思うわけですね。だから、仮に広場になったにしても、何か1本、物語のあるような木を植えたいなというふうに心優しく思っております。以上です。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私は、そういうふうな計画もいいかもわかりませんが、完全な無料の駐車場にすべきだと考えております。これは、実は私もこの件につきましては、何年前か、2年ほど前の全員協議会でいろいろこの跡地について、町中広場ということですが、駐車場にせんですかということで、大分申し入れもしましたけれども、広場ということでそのときはなかなか話が進みませんでした。

実は私は、市長が考えておられます温泉までさるく、それも私はまずは合致しているんじゃないかなと思うわけでございます。それに今、町中の商店街は大変な状況でございます。そしてまた、夜の歓楽街と、そういうのを考え合わせますと、あそこに無料の大きな駐車場をつくれれば、そういうふうなところの付加価値、今、あの場所の付加価値が上がるのではないかと考えておりますし、そういう意味では、空き店舗対策にも私はつながるのではないかと

と思っております。

ただ、問題点があると思います。僕の無料の駐車場についての問題点、自分なりに考えました。それはまず、そういうふうな駐車場にすれば、不法駐車が出てくるんじゃないかと思えますけれども、それはそれで武雄市は平成16年の4月に条例をつくっております、要するに、武雄市自動車放置防止に関する条例ですね。所定の手続を経て放置自動車を廃棄物、あるいは廃棄物外と認定して処分することができるということで、それはそれで解決ができるかなと思いますし、問題点の2点目として考えているのは、あそこの近くに有料の蓬莱駐車場があるということで、その整合性が問題かなと、私は私なりに考えております。

ただ、それはそれで、現在、駐車場は半分ほどは月極の駐車場として利用がされておるとい話も聞いております。もちろん月極だから、車庫証明にも同意するような、そういうふうな駐車場だろうと思えますけれども、完全に月極の駐車場としてすれば整合性は問題ないと思えますけれども、質問といたしまして、この広場のより一層の商店街への反映、また、そのためプラスアルファ、市長の考えているさるく、歩く、そういうふうなものにも合致しておると思いますので、いま一度そういうふうな考え方を駐車場にできないものか、見直しについてお尋ねしたいと思えます。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

議員と全く一緒であります。しかし、やっぱり心配するとは議員と全く一緒で、占有ですね、車の場合は、これ自転車と違って条例があってもひもで縛って持つていくことはできませんし、その財産権というのが、自転車とかあるいは家具と比べると、自動車の位置づけというとは日本の場合、重かわけですね。これをもって、条例の規範だけで持つていけるかというのは非常に難しかわけですね。

だから、管理をどうすればいいのか。だから、例えば地元の商店街、あるいは武雄温泉株式会社になるかもしれません。そういったところがきちんと管理をしていただくということであれば、私は補助金の出し方、県とか国への説明の仕方は別にして、多目的な中で主な目的として駐車場にしていきたいというふうに思っています。

議員と全く一緒であります。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

一緒だということで、私もうれしゅうございますけれども、そういう問題も確かに財産権があつてなかなか運べないという話もなるほどなと思えますけれども、管理が大変ということでございますけれども、実際、私は武雄市で今しておる白岩の駐車場とか、あるいは文化

会館の駐車場で大きなトラブルがあっているということも聞きませんので、私はそういうのを余り考え過ぎないでやればできるんじゃないかなというふうに我がなりにには考えておりますけれども、いずれにしましても、次の質問に移っていきたいと思います。

次は、病院事業について3点ほどお尋ねしていきたいと思いますけど、これはちょっと私的になってしまいますけれども、実は私に電話がございまして、それは保険会社に勤務されている方で、実は市民病院が診断書、ここに書類を持ってきましたけれども、診断書というのがあるんですね。そしてもう一つは証明書ですよね。それで、証明書が市民病院は高かばいと、だんじななかと高かという話でございました。それで私は、そういうことはなかですよと、一般論として、民間の病院は高いけど、公立病院は大体そういうふうなとは安いですよという話を私もしました。実は私も以前保険会社に勤務したことがありますので、大体その辺のことは事情はわかっております。それで、実際私も調べてみましたけれども、武雄市では、入院の診断書ですね、診断書、また証明書、これも一律で5,250円で区切っております。

実際、市内の病院、某整形外科、A整形外科、B整形外科は、この手数料を実は千円でされておるわけですよ。ということは5倍も差があると。その人の思いは、市民病院なのという、その人の思いですね。そいけんしっかりあなた、松尾さん、しっかりこのことは議会で意見してくんさいという話をされましたので、ここに話をするわけでございますけれども、実は、市外の公的病院と思われる病院の値段も調べました。これは嬉野医療センターですね、昔の国立嬉野病院。最初に説明した診断書、これは5,250円で武雄と値段は変わらないわけです。大町町立病院も5,250円でございます。佐賀大学附属病院が、これは何でか3,675円で、この診断書の件は私はどうでもいいんですけれども、この証明書ですね、これは武雄市は5,250円ですけれども、医療センターが1,575円、それで、大町町立病院が2,100円と、佐賀大学附属病院は3,675円ということになっておりますので、私は千円にまではしなくてもいいと思いますけれども、やっぱり市民の人の思いですね、市民病院なのという思いを考えて、保険会社用の通院証明書等の値下げ、これは条例になっているので、条例の見直しになると思いますけれども、それができないかをまずお尋ねをいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私の方から答弁をいたします。

まず、御指摘の保険会社の様式、通院証明書については、通院証明書という名称であるものの、証明内容は、傷病名、原因、治療期間、診断所見等、これは診断書並みの証明書になっているわけですね。いわばいろんな要素を包括しているわけです。

それで、市民病院としては、生命保険診断書の区分によって5,250円の文書料という形で

いただいて、それを条例に規範として出しておるところであります。これは私も調べたところ、例えば私が病気になったときに、毎回毎回これはもらうわけではなかですね、1回出すと。そのときに幾ら財源になっておるか、7,000千円強であります。これをもって、5,250円というのは正直言って私も高かと思えます。しかし、これが何度も何度もいったら、それは見直す余地があるかもしれませんが、一たん負担していただいて、それが市民病院のさらなる医療の向上に充てられているということからすると、私は見直すつもりはありません。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

見直す気がないということでございますけれども、私は市民病院が大変な状況だと思いますけれども、それは本体の医療行為等で頑張ってくださいとともに、きのうの議会でもあっておりますけど、手数料等が余り多過ぎると、そういうところでもっと見直すべきじゃないかなと思うわけですよ。本体の医療行為で頑張ってくださいと。

私は手数料というのは、わかりやすく言うならば附属的部分ですよ。もっとわかりやすく言いますと、私はサービスのなものじゃないかなと思うわけですよ。そいけんその辺をやっぱり見直すことが私は大事じゃないかなと思っております。

そして、やっぱり他の公立病院、同じ様式で問い合わせたところ、1,575円、2,100円という話でした。大町町立と嬉野医療センターですね。そういうところの兼ね合いも考えながら今後は進めていただきたいと思いますし、変えないと言われましたけれども、例えば、給付金が入院が5千円なら通院が20千円とかないんですよ。入院が5千円なら通院は1,500円ぐらいですよ。ということは、わかりやすく言うなら、10日もし通院して15千円の通院給付金を請求するのに5,250円かかったら、利用者は割高だと思います。私はサービスのものだと思いますので、この辺はまだ今からでもいいですから、研究をしていただきたいと思います、そういうふうに思います。

では、次の点に移っていきたいと思います。

これも実は私に電話がございました。どういうことかと今から説明しますが、ある福祉施設の職員の方から市民病院の対応の悪さについて私に電話があって、苦情を私に言われました。私は執行権者でも何もないんですけど、議会でしっかり意見ばしてくんさいという話でございました。それは内容はどういうことかといいますと、まずはその福祉施設の人が、施設の入居者が嘔吐したために担当の職員さんが車で市民病院に連れていきましたということですね。それで、14時15分ごろ病院に着いてから病院の対応者に事情を話したところ、救急車で来なかったのが救急の患者として対応をとろうとしなかったらしいです。そ

れで、14時40分に医師の診察があって、これは無愛想、これはどうでもいいんですけども、それで、その方がたまたまたばこを吸うときそういう話をされたら、そこにおられた入院患者の人もそういうことを言われたらしかですもんね。それで、そのとき看護師さんかだれから、「救急車で来っぎよかとけ」という言い方をされたという話でございました。

そこで、私はまず質問をさせていただきたいと思えますけれども、質問として、救急車で搬送された患者さんとそうでない緊急の患者さんとの扱いは対応が異なるのかなと思うんですよ。まずそれは異なるか、それで、もしそうならばそれでいいのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まず外形的に救急車がそうじゃないかで対応が異なるということはあってはならないというふうに思っております。その上で、私は順番というのはあると思えます。それは患者さんが置かれている緊急性、あるいは傷病の重大性、それを加味してプライオリティーをつけるべきだというふうに思っております。

以上です。

〔20番「それでいいかというのはどうですか。その何てろをつけるんですか」〕

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私もあんまりちょっと今のはぴんとかなかったんですけども、確かにわかりますよ、救急車で来れば連絡は入りますので、その間に用意をすとか、そういうところはあると思えます。それでもやっぱりこういうふうな苦情が出ないように今後は進めていただきたいと思えますし、私も答弁がいまいちちょっと、私も理解力、余り高度な教育を受けておりませんので、余り私もわからないところがありますので、それは横文字で、何やったですかね、プライオリティーというのは、まずそれはどがんことですか。それがわからんやった。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私も緊張すれば横文字を使うくせがありまして、もう本当に申しわけなく思っています。優先権であります。プライオリティー、優先権。ということで、それは患者さんの容体、あるいは緊急性に応じて差をつけるべきだろうと。

ただし、最初にぱっと救急車が入ってきたときと車が入ってきたときというとは、やっぱり病院の先生の皆さんも外形的に判断してしまうというとは、これはあるとかなというとは思いますが、同じ人間やっけんですね。ただ、それは考え方は議員と全く一緒であります。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

今度からなるべく横文字を使わないでお願いします。私はちょっと弱かですよ。

それで、確かにこのときこの人が言われたのは、私はタクシーがわりに使ったらいけないということで、なるべく使ったらいけないということで、今それがいろいろ問題になっているでしょう。使い過ぎとか、タクシーがわりに使っているとか、自分はよかれと思って救急車で来なかったと言われるんですよね。それなのにこういう対応をされたという、そういうふうな市民の気持ちがありましたので、私にこのことも意見してくんさいということで言われましたので、ちょっと話をしました。

では、次の質問に移りたいと思います。

この病院のことですけれども、健康診断が市民病院でできないかということをお尋ねでございます。

これは実は、合併になってから初めてこういうふうな問題意識が出てきたんじゃないかなと思うわけですよ。それは何でかといいますと、健康診断のとき、武雄町の分ですけれども、文化会館の玄関でやっておられたということです。それで、受ける人は外で1時間ぐらい立って待ってんかったという話ですもんね。そいぎもう、結局、健康診断を受けて、大体中高年が受けるとするならば、その間に体を壊しんかった人だって出てくるかなと思うわけですよ。ただ、今までは問題意識がなかったというのは、これは合併してある意味よかったのかなと思うわけですよ。ほかのところ、山内町とか北方町は合併する、今からでもですけれども、保健センターかなんかで、そういうところでされておられますけれども、武雄町の場合はそういうふうな外で1時間ぐらい待つことがあったということで、私に電話がありまして、私も現場に行きましたけれども、そのときはそういう待ちは見ませんでした。そして、昨年まで問診している人は座って、受ける人が立って受けよんかったという話ですもんね。今度はそれは改善されたということですけれども、こういうふうな、今説明したような健康診断のやり方を市長はどう思われるのかお尋ねすることとあわせて、市民病院が武雄町にありますので、武雄町の分だけでも市民病院で健康診断ができないか、お尋ねしたいと思います。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

御指摘ありがとうございます。直すべきところはきちんと直し、柔軟かつ適正な対応をしていく。これが武雄市政のあり方だというふうに思っております。

それと、次の御質問の市民病院ではできないかということについては、私も同じことを思

いよったとですね。しかし、医者への対応、そしてあと交通、そしてスペース等々を考えると、それはやっぱり交通の便のよさ文化会館の方が今のおりいいのではないかなというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

柔軟で適切にするという答弁でございましたけれども、こういうふうな待たせる姿を適正だとまず思われるのか、その辺をちょっと再度聞きたいと思っておりますけれども。今の現状ですよ、現状を直していただきたいと思うんですよ。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私もいろいろ聞いておりますので、今の現状が100点満点かといったら、それは違うわけですね。しかし、0点かといったら、そうでもなかけんですね。だから、より100点満点になるように、直すべきところは直すというのが私の見解であります。

〔20番「はい、わかりました」〕

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

次の質問に移りたいと思っております。これはちょっと指摘ですね。

次は、市長の政治姿勢について質問させていただきたいと思っております。

実は、私も国道35号線のS字カーブの改良の件をちょっとお尋ねしたいなと思うわけですが、前議会でも2人の議員が質問されておりました。今回も2人出されております、もう1人されましたけれども。それで、本当にこの件について市長は重大な問題だと考えておられるのかなということを私は疑問に感じたわけですよ、この前の江原議員の答弁を聞いておまして。

そこで、まず簡単な質問です。市長はこの問題を本当に重大な問題だと考えておられるのかお尋ねいたします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

重大な問題だと考えております。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

重大な問題ということで思っておられるということで答弁をいただきましたので、私は市長の政治姿勢、トップセールス、トップ交渉という話を聞いておりました。そういうふうに聞いております。

そこで、質問といたしまして、江原議員がこの件で質問されてからきょうまで5日たっておりますけれども、その間に反対されておられる地権者のところに、市長あなた自身は行ったのか、行ってないのではないかと思いますけれども、その点どうなのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

なぜ重大な問題かといいますと、それはやっぱり時間がかかるわけですね。軽易な問題、あるいはすぐできる問題というのは、少なくとも皆さんの認識だと思いますけれども、そういったのは多分重大な問題というふうにならんとします。私も歴史をつぶさに考え、そして、議員から御指摘があったように、例えば、内閣府におったり総務省におったりといったときに、私は国側であそこのS字カーブの重大性、重要性を国の公務員としても聞きよったわけです。だからこそ今慎重になっている、私はそういうふうに思っております。重大だからトップがぼんぼん飛び出すというのはかえってよくない。それはケース・バイ・ケースで私が出ていく場合、それともう一つがランクを上げてやる場合、いろいろ私はあると思うとですね。だから、それは事案に応じてやっていきたいというふうに思っております。

その上で、じゃあ行ったのかということでありますけれども、それは質問が酷だと思いません。私は議会で皆様方の、松尾議員もそうです、一生懸命答えようと思って、私も精査をし、そして、私も一生懸命同僚職員の力をかりて調べておりますので、今の時間については、私は議会に全力集中をさせていただいております。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

行ってないということでございますけれども、私は行くべきだと思うわけですね。まず行ってから、この前の答弁の中にも、行ってどうこうなるわけじゃないというふうな結論を出されておりましたけれども、まずは行かにゃ話はならんでしょうと、まず行くべきじゃないか。向こうから来んさらんですよ。まず行って、三顧の礼と一緒にですよ。そうでしょう。劉備玄德が諸葛亮孔明のとき何回も何回も行ったでしょう。私はそう思いますよ。何回も何回も行く、そういう姿勢がやっぱりその解決に私は進んでいくんじゃないかと思うわけですよ。（「そうだ」と呼ぶ者あり）それは絶対私はそう思いますよ。これは間違いないと



思います。まず行くことだと思います。選挙と一緒にです。

質問として、この件について市長の補佐役の副市長は行ったのか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

古賀副市長

古賀副市長〔登壇〕

直接自宅にお伺いして行ったことはありませんけど、その話はしたことは何回もあります。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

外政担当の副市長はいいです。

私は、この問題、この件、余りいろいろ言いたくないです。ここにちょうど市長の「前進か停滞か」という選挙用のパンフレットがあります。

〔市長「懐かしかったですね」〕

じゃあ、この件は、このS字カーブの解消は、前進か停滞か、後退していませんよ、前進か停滞かと考えたら、これは今の現在、私は停滞しているんじゃないかなというふうな感じがします。これはやっぱり前進させてくださいよ。再度その意気込みを市長にお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

前進か停滞か、思い出させていただきまして、ありがとうございます。

私は、最高責任者というのは、歴史に対する責任というとはあると思います。それはどういうことかということ、過去の今までの先人の皆さんたちの積み上げ、このS字カーブもいろんな方々が動いてきた。私の先輩の皆さんたちも動いてきた。その思いと、それと今後これがもしこけたということになってしまうと、私は将来の武雄市を担って立つ人たちに甚だ申しわけないというふうにしておるわけです。そういった意味で、私は前進か停滞かというのは、今の時点ではなくて、今後5年10年たったときに、ああ前進したと。だから、そのタイミングを見計らうというのが政治家である市長の役割であり、私は議会の皆さんたちの一つの役割であるというふうに認識をしております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

このパンフレットはなかなかわかりやすいですね。10年後はどうなっているかということで今市長が言われましたけれども、いずれにしても、この問題は、まず、市長みずからが相

手の胸に飛び込んでいく、それがまず大事じゃないかなと私は思っております。これは間違いないと思います。相手の気持ちですね。来もしんさんやったというのは、やっぱり感情を悪くするし、この前ちょっと収用法とかの話も触られました。でも、それは公共の福祉を個人の権利より優先するということで土地収用法の話もされましたけれども、今の世の中というのは個人の権利が優先するような時代です。この件については地道に行ってください。そう思います。

それでは、次に固定資産税と水道料金の値下げのところですけども、そのことをお尋ねしていきたいと思います。

これは、議事録でございますけれども、先般の6月議会の議事録の95ページに末藤議員の質問に対して答弁されているところでございますが、「固定資産税、あわせて水道料金の引き下げを政治家として決断したところであります。」、もっと先から読まにゃいかんですね、そこだけ読んだらいかんですね。「今、固定資産税がこのままいくと県でナンバーワンになる。こういったところで武雄の市民の皆さんたちが、固定資産税1番、あるいは水道料金が1番、いいことで1番だったらよかとですけど、こういったところで果たして住民満足度がキープできた生活ができるのかどうか。私は政治の観点からそれはいかがなものかと思ひ、固定資産税、あわせて水道料金の引き下げを政治家として決断したところであります。」ということで、心をはっきり決められたわけですよ。心をはっきり決められたと思います。それなのに　それなのにというのは、私もよくわかりませんが、具約の中にはそういうふうな値下げに向けて専門審議会を設け、検討を開始するということを言われておりますけれども、これはそういう考えみたいです。

それで、これどうかなと思うわけです。もう決まったことをわざわざ審議会に諮らなくても、幅のことを諮られるのだと思います。そういうふうに私も思っております。それは実は、前議会の議事録の184ページ、これは江原議員の質問に答えられているところですけども、これは諮問の仕方ですね、これをずうっと見たら恐らく幅だろうと思います。先に向けて下げるように決めましたと。幅についてというのが本当じゃないかなという感じがするわけですけども、ここを読みますと、「専門審議会には引き下げの方向で検討すると同時に、どれだけの幅かというのは、どういうサービスがこれから武雄にとっていいのか、どういうことをすれば武雄が持続的に都市として経営ができるか、そういうこともあわせて私は諮問」ということでございますので、わかりやすく言うならば、ただ下げてくんさいじゃなくて、片手に下げてください、片手にサービスは維持してくださいという諮問のやり方だと思うわけですよ。ただ下げてくんさいというんじゃないで、読むからにはそういうふうに思いますけれども、確認の意味で聞きます。こういう諮問のやり方なのか、御答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

先ほど私が答弁しようとした中身をすべて読んでいただいたので、そのとおりであります。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

ということは、私の予感では、この下げ幅は市民が期待しているよりも小さいのではないかと思うわけですよ。例えば、固定資産税が今100分の1.55なら、それが1.54とか53とか、小手先ぐらいの下げになるんじゃないかなという感じもします。それは諮問のやり方だと思いますね。例えば、右手で下げてください、左手で行政サービスを維持してくださいということでしょう。こういうことも市長は言われています。これは議事録の95ページですね。末藤議員に答えたところですよ。「私は、このように考えております。税金を高く取るのであれば高いサービス、税金を低く抑えれば、それは低いサービス。この逆というのは、私はないと思います。」、私も同感です。それで、それに近いことをされる。これはこれでいいと思いますけれども、場合によっては、この引き下げについて、まかりならないという答申が出た場合はどうなるのかなと思うわけですよ。これを維持するためには、これは下ぐっとはちょっと難しかばんだという答申ですね。そのときは答申に従うのか、それとも、もう市長が決断されて、もう下げることを決断しました、心を決めましたと、そっちを優先されるのか、私はそこがちょっとわかりません。そのときどうするのか、お尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

まさか私の具約、あるいは私が議会で再三答弁をしている方向と違う審議会の中身が出るということは期待はしておりません。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

いや、期待じゃなくて、そのときどうするかということ聞いておるんですけども、答えられますか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は、具約で佐賀県一にならないというふうに公約をし、そして当選をさせていただいております。再三にわたって議会でもその旨を質問いただき、答弁をしております。

したがいまして、これは議会ともし違う判断が仮に出てきた場合は、私の判断を優先させていただきます。

〔20番「審議会でしょう。市長、審議会でしょう、審議会と違うことでしょう、議会じゃなくて審議会で、あなたは議会と言ったから」〕

ちょっと緊張いたしました。

〔20番「お互いさまですよ」〕

それはありがとうございます。審議会と私の意見が違うといったときは、私の市長としての意見を優先したいというふうに決意をしております。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私は、これ私の考えですよ。ただじゃないですよ、審議会も、ボランティアで審議会してくんささぎよかばってんですよ、それはそれなりに日当が5千円なり幾らなり要と思うわけですよ。私はこういうふうな審議会に諮問するような、答申をいただくような政治の手法というのは責任逃れの政治じゃないかなと思うわけです。あるときは答申をにしきの御旗にし、またあるときは審議会のせいに、今回市長はそういうことはしないということを知りましたので、私は安心しましたけれども、一般論としてそういうことがあると思うわけですよ。私はしたかったばってん、審議会がいかんて言いよっですもんねというごたっ感ですよ。

それで、私は今本当に市民が求めているのは、自己責任の政治だと思うわけですよ。私は審議会は全部は否定しませんよ、広く意見を求めて。それは審議会の内容によると思うわけですよ。内容による。例えば、報酬審議会とか、名誉市民を決める審議会とか、そういう審議会だったら、その審議会にかけてもいいと思うんですけれども、今般のような引き下げのようなのは、これは政治そのものだと思うわけですよ。それは市長がしっかり決断をしてですよ。立派な成績で上がっておられる。もうあなたが任されているんだから、それは私はそう思いますよ。

〔市長「ありがとうございます」〕

いやいや、本当の話で。（「そのとおり、そのとおり」と呼ぶ者あり）

それをみずから自信を持って進めてもらいたい。そして、しっかりした議員がいるじゃないですか。私は大したことないですけども、立派な議員が29人もおられます。そこに上程されればいいと思うわけですよ。私はそういうふうに考えます。審議会に何でもかんでも諮るのが本当に正しいのかなと。

それで、特にもう結果が出ていますよね。審議会が答申をもし出しても、自分の考えと違ったら、結局そっちを優先するというならですよ。そういうふうなむだはなくすべき

じゃないかと、私はこういうふうに考えますけれども、自分の考えをこの場で言わせてもらっただけでございますけれども。

次に、新幹線についてお尋ねしていきたいと思います。

新幹線に対する自分の考え方をまず言いたいと思います。それは、自分は新幹線に、選挙公報にも書いておりますけれども、推進でございます。ただし、千載一遇のチャンスだから、私はフル規格でつくるべきじゃないかなというふうに考えています。それに推進しますということで選挙で当選させていただきました。

それで、私は今、がばいばあちゃん、はっきり言ってこれはすごいと思います。みんな市民はときめいています。私も何人でも、「どがんないよっですか」「どこでロケのあいよっですか」「いんにゃ、私はがばいばあちゃんの番はしよらんけん」と言いますけれども、そういう話をいっぱい聞きました。それに比べて新幹線の話をする人はだれもいません。「新幹線どうなっていますか」、だれも聞きません。私たちは割と市民の感情に敏感なのでよくわかります。がばいばあちゃんは段じゃなかです。これは認めます。大したもの。認めます。

それで、質問といたしまして、私がちょっと不思議に思ったのは、そういうふうな新幹線にみんなが興味ないのに、そういう話は全然聞かないのに、1月ごろされたですね。私も武雄町のミーティングホールのとき行きました。住民説明会に、私が思うより割と多かったですね。まず何人ぐらいの方がずうっと来られたのか、人間を教えてください。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

旧武雄市で開催した各町での住民説明会の実績ということでございますが、18年の1月17日、橘町から始めまして、1月25日、西川登町の住民説明会、各町で行っております。全体の参加者が640名ということで報告を受けております。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員。

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

今も話をしましたけど、確かに多かったですよ。ただ、やっぱり顔見知りの方が多かったですね。どここの区長さんとか、また市の職員さんとかが確かに多かった。

質問として、区長さんなり市の職員なりに要請なり動員なりかけたのか。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

先ほどの説明会についての動員要請ということでございますが、市の方からは各区長さんの方にチラシの配布をお願いしたところで、特にうちの方から強く出席要請はしておりません。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

特にしていないということでしたけれども、そういうことで、この前の世論調査も今まで武雄市は反対が多かったのに、そういうふうな積み重ねが住民の意識が変わったのかなと思いますけれども、私はそのとき話を聞いていて不思議に思ったのがあるんですよ。それは、そこで聞いてもよかったんですけども、選挙前でしたから、どうなるかわかりませんやっただすけれども、そのうち聞く機会があるだろうと、あそこでもしそのことを聞いてもわからないだろうという感じもしましたので、それは何でかというのは、私はフリーゲージトレイン、これは広軌から狭軌、広い線路から狭い線路にずうっと通っていくと、建設費を余りかけないという話だと思います。そういう列車になると、私もわかっておりますけれども。

そこで、ここから諫早まで新しい線路をつくれる。私はそのときは今までのところは狭軌でつくられるけど、将来的には広軌になるとは思いますけど、トンネルは広軌対応だとも聞いておりますが、当分の間は狭軌だということで行われるんですけども、本当に建設代を少なくするとするならば、彼杵までは大村線が来とっわけですよ。あそこから普通の在来線を使えばまだ安くなるんじゃないかなと思うし、この点がわからんわけですよ。要するに新幹線から在来線、それからまた新幹線の規格になって、また普通の在来線というふうにして、お金をかけないようにするのがフリーゲージトレインだという話を聞いておりました。

そこで、ここが矛盾しているなという感じがします。質問といたしまして、フリーゲージトレインは何で彼杵から在来線を通らないのか、わかりやすく答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

まず、新幹線の建設についてでございますが、これにつきましては、鉄道輸送の需要の動向、それから、国土開発の重点的な方向その他新幹線鉄道の効果的な整備を図るため必要事項を考慮し、建設を開始すべき新幹線鉄道の路線を定める基本計画を決定しなければならないということで、これは全国新幹線鉄道整備法の第4条でございます。そういうことで、新幹線につきましては、日本全体の高速鉄道網を整備する国策であるという観点から、今回お尋ねの西九州ルートにつきましては、実は昭和48年11月に整備計画が決定をされておりました。

て、平成16年の12月に政府、それと与党の申し合わせでフリーゲージトレインで整備を目指すということになっております。その中で、新鳥栖から武雄までについて在来線を利用すると。それから、武雄から諫早につきましては新線を引くと、そういう内容で合意がされておるところでございます。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

抽象的でわかりませんね。基本計画に沿って決定をしているということで、鉄道輸送の需要動向とか国土の開発とか重点的な方向、その他新幹線計画の効率的な整備を図る必要な事項を考慮してとかいう話でございましたけれども、あんまりわかりませんですね。今の答弁はびんときません。わからん。これ以上の答弁はないから、これ以上聞いても私もわかりませんが、本当はそういう計画をされたから計画に沿ってつくられたというなら、何でそういう計画になっているのかなと、これもわからんとですね。金をかけないように作るフリーゲージトレインなら、金をかけんごと彼杵から在来線を通っていけばよかじなかですかねと、こういうふうに考えます。今の答弁は普通の人が、一般の人が聞いているんですよ。ちんぷんかんぷんですよ、はっきりいって。

進めます。それ以上の答弁は持ち合わせないと思いますので。

大町町の分が載っている新聞をまず読んでいきたいと思います。実は平成18年の2月10日の佐賀新聞です。これは「長崎新幹線「道路交通に支障」大町町で県説明会、町議ら疑問の声」ということですね。県側が、通過する新幹線、特急の本数が現状の3倍になることを説明したと。出席者から「主要幹線の国道34号線とJR佐世保線が接近しているため、複線化や遮断回数増加によって、重要な交通に支障が出たり、安全面を心配する意見が集中した。」ということでした。

私は、このまま本当にフリーゲージトレインで新幹線の整備がされたら、資料をいただきましたけれども、今の武雄市も南北の交通の支障が出てくるんじゃないかなという感じがします。

実は、焼米のところから自動車学校までは踏切が9やったですかね、あると聞いております。そして、今まで1時間当たり3分だったのが6分ぐらい支障が出てくると、許容範囲かわかりませんが、新幹線というのはみんながよくならんばいかんわけですよ。新幹線の説明会のときも言いました。今まで1時間に1本来たのが2本に、便利になりますよと、そういう話がありましたけれども、そういうふうな支障が出てくる件、これは本当に重大な問題だと私自身は思っております。

そこで質問ですけど、この市内の踏切の交通障害についての問題意識、これは市長は持っておられるのか、まずお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

市長として問題意識は当然持っております。その上で、じゃあそれがゼロになるのがいいのか、許容範囲がいいのか、それはそういった負担が最小限になるように我々も働きかけていかなければならないというふうに思っております。許容範囲内、私はその言葉を大事にしたいというふうに思っております。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

許容範囲内というふうに思っておられるようでございますけれども、私は、みんながやっぱり便利にならなくてはいけないと思いますので、こういうふうな新幹線ができて、やっぱり市内に不便な人が出たら絶対いかんと思うわけですよ。進まんだらうと思います。

そこで、こういうふうな全面を高架にするとか、フル規格にできれば、国に対してそういうふうな働きかけ等々は考えられんのかと思いますけど、その辺はどうですか。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

先ほどの踏切関係の安全面、そこら辺については、現在、沿線自治体の方、これは鳥栖から嬉野まで、12自治体ございますが、その首長、議長が参加をしております。九州新幹線西九州ルート地域振興連絡協議会、これを立ち上げておりまして、いろいろな意見等も出ております。そういうことで、うちの市長も事務局長でございます。そういうことで、今後関係機関にも働きかけをしていきたいということで考えております。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

この答弁は市長みずから聞いたかったですけれども、事務局長をされて、それで事実、もう働きかけていっているんですかね。働きかけ、どうですか。お願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は着任以来、県内で初めて市長として要請を、国土交通省の鉄道局長さん、あるいは審議官次長等々に、あるいは自民党の久間総務会長等々に直接行って推進並びに地域の踏切で



あるとか騒音であるとかというのはダイレクトに直接伝えております。

それと、先ほど会の中で事務局長という役割を仰せつかっていますので、そういった意味で、武雄だけではなくて沿線の自治体が同じように新幹線の地域振興という観点からメリットを享受できるように私も一事務局長として、また市長として直接間接に今頑張っているところであります。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

それでは、次の質問をしたいと思いますけれども、これは新聞ですね、これもるる世論調査の話はされました。ここで、確かに去年は反対が56%、不要が56%、今度は55.2%ということで、0.8%ほどは不要が減ったわけですね。前回1年前の佐賀新聞の世論調査と比べればですよ。それに使った県の費用というのは、0.8%減ったんだけれども、幾らぐらい使ったのか、宣伝費用等、PR費用等をお尋ねしたい。

議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

これは17年度の県の新幹線推進のPRに要した費用ということで、県の方からは約20,000千円使ったということで、中身については、テレビスポット、それから、新聞公告、ポスターの配布、県民だより、そういう経費に使ったということで聞いております。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員。

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

20,000千円使われたと、0.8%は改善しておるんですけれども、20,000千円使って、たった0.8%しか、はっきり言ってもう県も打つ手はないのではないかなという感じがするわけです。20,000千円も使って、たった0.8%ばんだ。私はそういうふうに思います。私はもう県民はこのフリーゲージトレインに魅力を感じていないのではないかなと思います。

実は、私は鹿島の有力な政治家の方とお話する機会がございました。この人は反対の立場の方だから、名前はちょっとここで言うわけにはいきませんが、そういうふうな有力な政治家の方です。その方は、今反対している人の半分は、フル規格の新幹線だったら賛成に回るだろうとおっしゃいました。こんくりゃあの新幹線の犠牲にはなりとうなかという気持ちでございました。私よりその人は反対の立場で有力な政治家です。本当は名前を言いたいんですけど、相手の了解もとっておりませんので言いませんけれども、そういう気持ち

を言われました。そがんばいて。やっぱり戦に例えれば、大将に討たれるならば本望ばってんという気持ちじゃなかかなと思うわけですね。雑兵には討たれたくないと。どうせ討たれるなら大将に討たれたら本望ですよと、こういう気持ちじゃなかったかなと私は思っております。

私は、このままフリーゲージトレインで整備した場合は、在来線での踏切事故、または通常起こり得ない置き石とかそういうので山陽新幹線にまで影響を及ぼすんじゃないかなと思うわけですよ。そういう意味においては、今まで築き上げてきた新幹線の信用を、信頼性を私はおとしめるものだと、こういうふうを考えております。

市長はこの前の議会で言いました。中国人の方が富士山と秋葉原と新幹線を目当てに来られると。もしダイヤが乱れた新幹線に中国人が接したとき、中国人は果たしてどう思われるのでしょうか。私はフリーゲージの新幹線はいかがなものかと思っております。でも新幹線には推進ですよ。それだけ言っておきます。

では、次は鉛管の問題についてお尋ねしていきたいと思えます。

最初は、この鉛管、継手工事の対応でした。40年かかります。このごろは10年で改善するということになっているようです。

質問としましては、10年の計画の内容についてまずお尋ねしたいと思えます。

議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

伊藤水道部長〔登壇〕

鉛管更新の10年間計画の内容でございますけれども、鉛管の更新につきましては、鉛管本体そのものをかえる鉛管更新事業と、老朽管による更新の2通りを考えております。総箇所数としましては3,828カ所、このうち鉛管更新で2,567カ所、それと老朽管更新で1,261カ所について予定をしているところであります。

もう議員も御存じのとおり、ことし鉛管更新事業では30,000千円をいただきまして、そして、既に予定しました200カ所については発注を済ませたところでございますけれども、入札減等がございましたので、この残りの予算も活用しまして、あと20カ所程度については行いたいということで考えております。また、鉛管更新、また、漏水工事等において130カ所程度毎年できるものというふうを考えておりまして、大体年間平均を250カ所と130カ所の合計の380カ所で毎年更新を行いたいということで計画をしているところであります。

以上でございます。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

優先順位の話をしたいと思えます。

市長は、平成20年を目途に水道料金を下げられるというふうに決定をされました。私はそれは本当にいいことだと思います。料金よりもまず安全性を優先すべきじゃないかなと私は思っております。安かばい、おろいかばいじゃないかと思えます。安い、きれいな水をという気持ちじゃないかなと思うわけですね。優先順位です。市長はそういう判断をされました。できれば、この10年計画をもっと早められないかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

ちょっと答弁に入る前に、鉛は結構話題になっていて、いろんな誤解とかいろんな話がありますので、ちょっと私の方から説明をさせていただきます。

もともとこっこの現行基準、1リットル当たり0.05ミリグラム、（300ページで訂正）これは乳幼児でも安全なレベルやったわけですね。これがおおむね10年後、長期的な目標を0.01ミリグラム、これはWHOのガイドラインで乳幼児に蓄積しないレベルというふうになっております。そういったことで、これを目指すべきだというふうに考えておりますけれども、そいぎ今どがん状況かといったことは、中段の図にありますように、まず0.05以上、これは平成14年の10月の調査では、これは武内の1カ所、0.05から0.01というのは、これは1カ所、0.01以下というのは33カ所、計35カ所あったわけですね。だから、ここで問題になるのはその時点で1カ所やったわけです。これが平成15年4月17日に調べたところ、0.05以上というのはなくなったわけです、当然調査を受けてなくなっている。0.01以上0.05未満は5カ所になっています。これは場所は東川登3カ所と若木の2カ所という報告を受けています。0.01以下は55カ所。

だから、大部分のところは0.01から0.05というても、もうこれはある意味安全なわけです。ここで基本的にWHOは物すごく高い基準を強いているもんだというふうに認識しているわけですね。もともと0.05でも乳幼児も安全なレベルと言っていたのが、これは人体に対する影響とかいう等々で私もこれは否定するわけじゃありませんけど、非常に厳しくなっている。これはもうクリアできているわけです。この0.01以上0.05以下、こういったことをまず重点的にやっていきたいというふうに思っておるわけです。

答弁に入りますけれども、したがって10年というのは長いんではないかと。決して長うなかと思えますね。

〔20番「早められないか」〕

いや、そいけんが、早めるよりは、それで各年の財政負担というのを和らげるということが私は筋だというふうに認識をしております。

以上です。パネルありがとうございます。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

私は、基準を超えてもすぐには健康被害にはならない。これはわかっています。わかっていますけれども、17年の3月議会、このようなことを言われたですよ、実は規制を超えた水道水を長期にわたって飲み続けた場合は、疲労感、不眠、神経過敏、頭痛、便秘等の症状が出てきますということは言われております。ただ、私は優先順位として料金よりも安全性だと思えます。だから、何とかもっと早められないかなと思えますけれども、しないと言われました。本当にそれで市民が喜ぶでしょうか。私は安かばい、おろいかばいになるんじゃないかなという感じがします。危ないとは言っていないよ。おろいという意味です。（「おかしいですよ」と呼ぶ者あり）まあいいです。

質問を続けます。もう水道はやめます。

じゃあ今度は競輪にお尋ねしたいと思います。

読売新聞、5月31日のとき、「武雄競輪基金の取り崩しへ」ということで、記事を読みますよ。「2005年度のように、ビッグレースが開催されると収入はふえるが、通常レースだけで基金の取り崩しとなる。このままでは数年で基金も底をつき、一般財源からの繰り出しという可能性もある。樋渡啓祐市長は、単年度赤字があったとしても、数年単位で見ると収支はとんとん。競輪事業をやめることはない」と明言。今後、公営ギャンブルの意義が問われることになりそうだ」ということを記者は言っておりますけれども、こういう記事がございました。これは実施目的ですね、自転車競技法、これを私ちょっと読み上げたいと思います。1条「都道府県及び人口、財政等を勘案して総務大臣が指定する市町村(以下「指定市町村」という。)は、自転車その他の機械の改良及び輸出の振興、機械工業の合理化並びに体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の振興に寄与するとともに、地方財政の健全化を図るため、この法律により、自転車競走を行うことができる」ここで、地方財政の健全化というのがあります。これはお尋ねですけれども、単年度赤字による一般財源からの繰り出しと自転車競技法の地方財政の健全化との整合性はどうかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

この答弁に入ります前に、安全性の観点で、水質の観点でやはり質問におかれても、ケーブルワンを見られている方、あるいは議事録に残ります。それで、やっぱり市民の皆さんに誤解を生むような発言というのは私も憤めますし、議員におかれても、そこは修正をされた方が私はいいと思っています。私は決しておろいか水でもないというふうに思っております。

それで答弁に入りたいと思います。

まず、競輪事業については、先ほど引用された読売新聞の見解と私も身までも全く一緒に

あります。地方財政の健全性と、今、単年度赤字になったから、財政は単年度で見るべきものと、もう一つは5年、あるいは10年で見るべきものがあるというふうに思っています。そういった意味で、これは中期的に立った場合には、確かに赤字が将来生じていても、私はそれは大幅な赤字、あるいは何年間で本当にこれはもう無理ばいということにならない限りは、私はこれまでの功績、そして、200人以上を越す従業員の皆さん、そして、あれを処分、全部つぶしたときの費用を考えると、私は持続してしかるべきだというふうに考えております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

最初水道のことを言われましたので、おろいということでございますけれども、例えば、二つの水道があったと。一つは鉛管を通っている水道、もう一つは何もない水道とするなら、どっちを飲むですかと言うたら、私はちゃんとした水道をみんな飲むんじゃないかと。そういう意味においては、私は危ないと決して言っていませんよ。おろいということを言いました。確かにそれは言いました。でもそれはそれで、どっちを飲むかというなら、それが立派な水かといえ、私は立派な水じゃないと思いますし、それは危険性はないでしょう、私も言いました。基準を超えても健康被害は出らんと、これはちゃんと言っています。私は私で取り消す気はありません。

それで、この競輪のことについて、今るお話がありました。数年単位で見るとということでは市長は考えておられると思います。その間にふるさとダービーかなんか来るだろうと、何とかなるだろうということだったと思います。

私も、これはやめるのに金は確かにかかります。やめると言ったんじゃないですよ。ただ、そういうふうな支出の根拠はあるかないかと考えたら、支出の根拠はあるだろうと。それは何でかといったら、一般財源に今まで、不確かですけど、約150億円等のお金が入ったとするならば、私はやめる場合は根拠は立つだろうと思います。でも私が今回一番心配しているのは、損切りですよ。ずるずるとなった赤字が膨らんで、それだけが一番心配なんですよ、はっきり言って。過去に武雄市はマイカルのMMCで失敗しましたよ。いつか戻るだろう、いつか戻るだろうということで損切りができなくて大きな損になりました。

だから、私はその一方で、確かに私の支持者にもたくさんの従業員さんがいます。私の情としても赤字でも続けたいという気持ちもあります。

そこで、市長のこの考え方について私も最終的には支持、応援をするつもりです。単年度赤字があったとしても、数年単位で見るということは、私はただ重大なことだとは思っております。

質問として、市長がこの決断は政治生命をかけて決断されたのかお尋ねします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

私は決断をするとき、重大な決断をするときというのは、絶えず自分の政治的生命、あるいは歴史に対する私の思いを含めて考えております。何もこれ一つ思って政治的生命をかけてというつもりはありませんけれども、それぐらいの意思を持って今考えております。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

では、私は売り上げ向上のための提言をしていきたいと思えます。

銀行のATMを本場、各サテライトに設置する件です。

今コンビニもATMがございます。現に大村競艇の場合は平成9年5月より親和銀行のATMがあります。そして、大体開催日は払い出し件数が1日167件ほどあっていると聞いております。この件は実は前市長のときにも提言しましたが、できませんでした。樋渡市長の政治力で、交渉力で私はできないかと思えますけれども、どうでしょうか。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長。

樋渡市長〔登壇〕

ATMの設置、私も聞いたときにはこれはよかなというふうに思いました。しかし、銀行がやっぱりうんと言わんとですね。銀行は収支採算性とか、あるいはセキュリティーの問題とか、いろいろ考えて相思相愛の状態にならんとですね。

したがって、私はお褒めいただいた政治力とかもってしても、なかなかそれは無理かなというふうに思っております。

以上です。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

いや市長、結論を先に出さず、まず努力をしてもらいたい。いつも結論はあなたは出されます。まずはやってくださいよ。よそは、大村競艇はあるんですよ、全然ない話をしてるんじゃないです。頑張ってください、結論は先に出さずに、やってみてください。汗をかいてください。

次の提言をしていきたいと思えます。

私は、これも大体九州の本当のお金持ちさんというのは福岡周辺におられると思うわけですね。福岡市かその周辺だろうと。そういうふうなところに住んでおられる競輪のファンの人、

大口のお客さんですね。こういうのを取り込みができないかなと私は思うわけです。

特別競輪ですね、この資料もいただきました。ふるさとダービーとか、宮杯とか、これずうっと読んだら時間がかかりますけど、オールスター競輪とかグランプリとか、いっぱい特別競輪がっているんですね。それで、そのとき果たしてそういう人、福岡周辺の人、福岡市の人、そういうふうな大口のお客さん、そういう人はどこに場外に行くのかなと考えたときに、小倉に行くか、久留米に行くか、あるいは武雄に来るかですよ、どこで買うかとするならば。

私は、これ提言ですけれども、武雄の旅館の宿泊券などをプレゼントしてでもそういうふうな大口のお客さんを取り込むような積極的な営業を私はすべきだと思っております。この点について答弁をお願いします。

議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

樋渡市長〔登壇〕

答弁に入ります前に、先ほどそんなに早く結論を出さんと、これは私も一緒です。結論を早く出した方がいいのと出さん方がよかということ、いろいろあっけんですね。私は短時間でも熟慮して、これはちょっと無理やろうというふうに思っております。決して短慮してやっているわけじゃありません。そういったエネルギーを実は先ほどの質問のようなどに振り向けたかというふうに私は思うとるわけです。

その中で、私は一つ、私も事務方に調べてもらいました。やっぱり富裕層がこういう公営の競輪とかいろんなことに使われている。その情報ということは個人情報保護の観点でなかなかとられんわけですね。だから、一つ私が逆に提案したいのは、今富裕層はどうやって百貨店とか囲い込みよるかといったら、ゴールドカードとかブラックカードとかということのあっらしかですね。横文字は好かんばってんです、私も持たんです。そういった顧客の情報を集めるようにして、ゴールドカード、あるいはブラックカードということで囲い込みをした上で、先ほど議員が御指摘のように、いやこういうサービスがありますと、したがって、富裕層と、言い方はちょっときつくなるかもしれませんが、一般のというのはちょっと分けて今後戦略を図っていく必要はあるというふうに思っています。全く同感であります。

議長（杉原豊喜君）

20番松尾初秋議員

20番（松尾初秋君）〔登壇〕

ほんなごて情報収集にまず努めて、積極的な営業をしていってください。そして、しっかり樋渡市長の政治力、交渉力で頑張ってください、ATMの件も。

以上で質問を終わります。

議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で20番松尾初秋議員の質問を終了させていただきます。  
ここで1時まで暫時休憩をいたします。